Tokyo Bay Yachiyo city CHIBA Pre.

まい埋やちよ

No. 32
千葉県八千代市
埋蔵文化財通信
2015. 9. 30
（平成27年）

特集　白幡前遺跡ｅ地点の調査成果―中世～近世の富裕層―

本号では平成26年度に調査を行なった白幡前遺跡ｅ地点の調査成果についてご案内いたします。

白幡前遺跡の概要

白幡前遺跡では縄文時代や弥生時代，古墳時代，奈良時代，平安時代，中世，近世といった幅広い時代の遺構が多数発見されており，八千代市内でも有数の規模を誇ることが明らかとなっています。さらに，今回の調査では中世～近世に属する遺構が発見されたことで白幡前遺跡には中世の集落も存在したことが明らかとなりました。

白幡前遺跡ｅ地点の概要

白幡前遺跡ｅ地点は八千代市萱田字牛喰1787，標高は約８～９ｍの低位段丘面に立地し，中世～近世に属すると考えられる掘立柱建物跡，土地を区画するための溝，多数のピットが検出されました。

出土遺物はとても多彩です。中世から近世にかけて土鍋・擂鉢・灯明皿・板碑・銭貨・砥石・貿易陶磁といったものが出土しました。その中でも特筆すべきは貿易陶磁と呼ばれる中国で作られた青磁碗です。正式な名称は線描蓮弁文青磁碗と無文直口青磁碗というもので，15世紀末に作られたと考えられています。さて，この２点の何が特筆なのでしょうか。それは今まで県内でほとんど出土例がなかったことで，これらは千葉県における中世の歴史を考える上で新たな視点を提供してくれる可能性があると言えるでしょう。

どんな人々が住んでいたのか

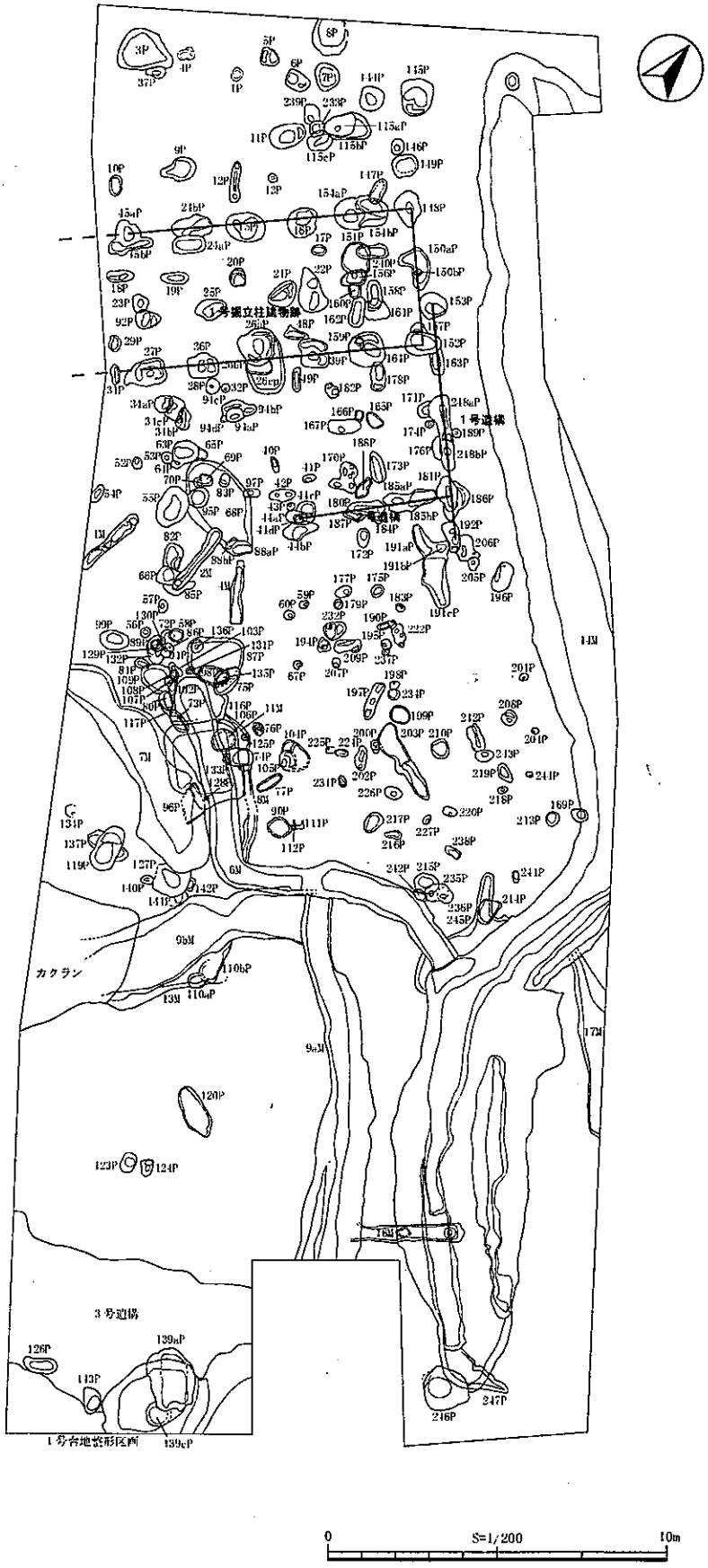
このように多彩な遺物が出土しましたが，白幡前遺跡ｅ地点にはどんな人々が住んでいたのでしょうか。それを知る上で重要なものが出土遺物の中にあります。先ほど触れました青磁碗に加えて天目茶碗や鉄絵皿，織部菊皿，志野丸皿といった当時にあって高級であったと考えられる品々が出土しています。さらに，やはり高級な品である漆製品も10数点出土したことから，豪農や武士といった富裕層がこの土地に住んでいたと考えることができます。

それでは，どれくらいの期間この土地は利用されたのでしょうか。今回出土した遺物には戦国時代である15世紀末に作られた物から江戸時代後半となる19世紀代に作られた遺物まで見られます。したがって，中世～近世の数百年間にわたって利用されたと考えられます。

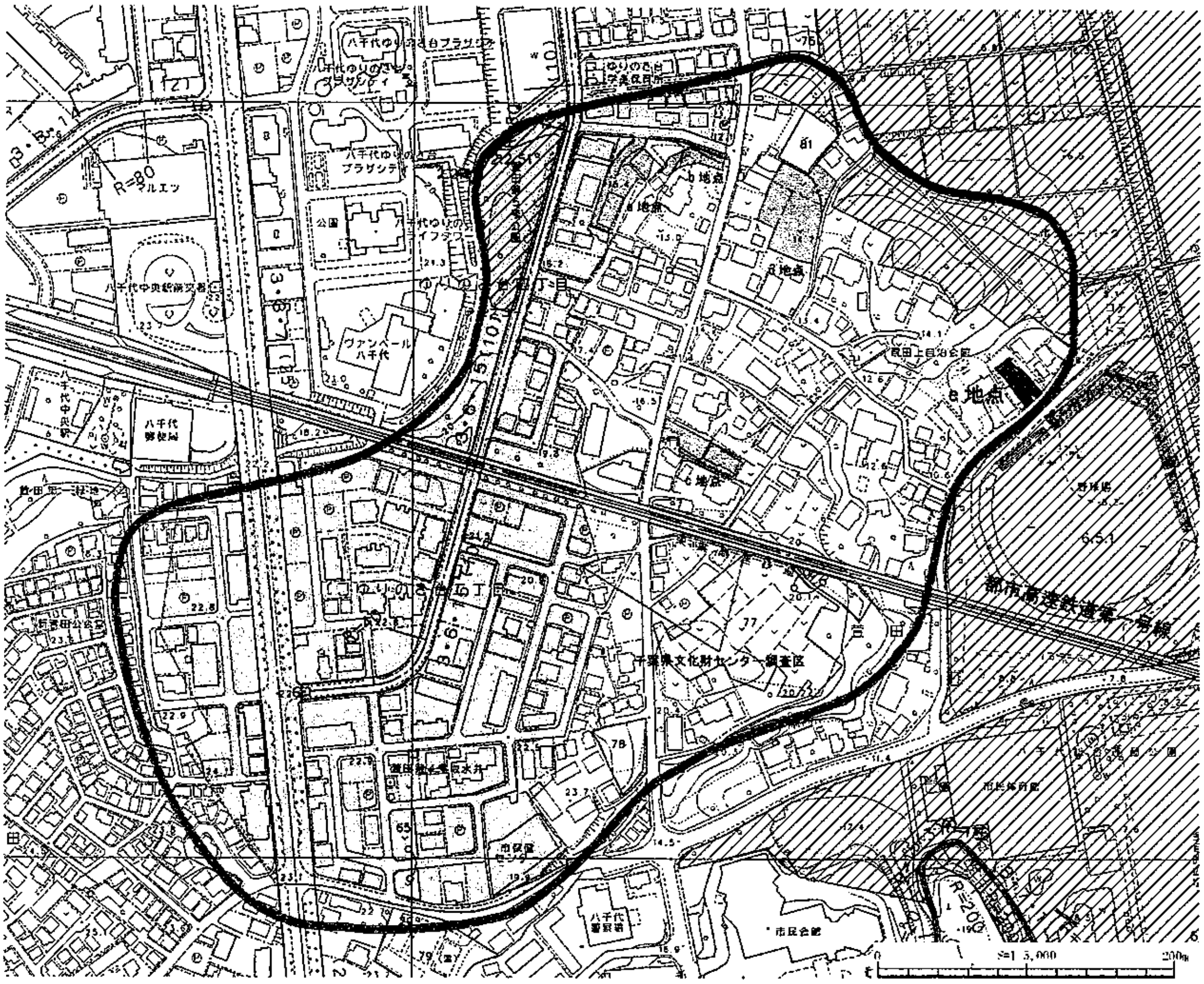
一方，遺構に目を向けると，区画溝の中でたくさんのピットが掘られたことから，人々は数百年間にわたって区画溝の中で母屋などの建物を建てて生活したと考えられます。

おわりに

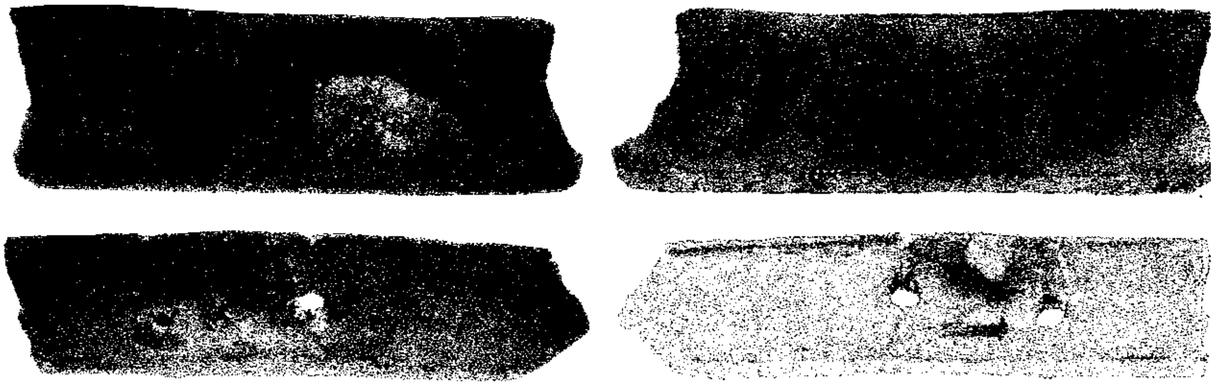
白幡前遺跡ｅ地点の調査成果は八千代市における中世～近世の富裕層の生活の一端を明らかにしました。しかし，八千代市では中世～近世の調査例が少なく，まだまだわからないことがたくさんあるため，今後の調査例の増加による新たな発見が待たれます。



白幡前遺跡ｅ地点遺構分布図

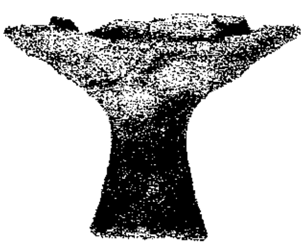


今回の調査地点と過去の調査地点

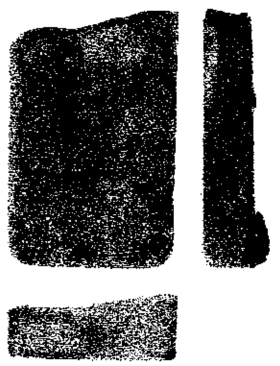


中世の土鍋

中世の灯明皿



近世の灯明皿



中世～近世の硯

中世の板碑

中世の擂鉢

近世の擂鉢

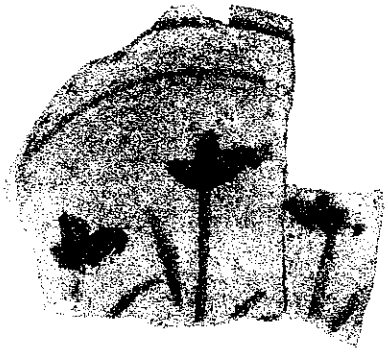
線描蓮弁文青磁碗

無文直口青磁碗

織部菊皿

天目茶碗

天目茶碗



鉄絵皿

志野丸皿

志野丸皿

埋（まい）やちよ　No. 32

―千葉県八千代市埋蔵文化財通信―

平成 27 年 9 月 30 日

編集・発行　八千代市教育委員会

教育総務課　文化財班

八千代市大和田 138-2

〒 276-0015　☎ 047(481)0304

やっち